

## お礼のことば

今年の梅雨は空梅雨模様ですが、皆様におかれましてはご清栄にてお過ごしのことと拝察いたしております。

さて、私の退職記念事業では大変お世話になり、ありがとうございました。5月25日に開催していただきました退職記念講演会・祝賀会には多くの皆様にご参加いただき、懐かしい顔にお目にかかることができました。冥土へのよい土産ができたと思っております。

思い返せば、昭和55年4月に家族3人（私、妻、長女）で鹿児島にやってきました（事務上の着任日は昭和54年6月1日）。当時は学生との年齢差が10歳程度であり、兄貴のような気分で学生と接しておりました。昭和60年12月に私の上司であり、恩師であった春山元寿教授の突然のご逝去に見舞われました。平成2年度は10か月間西オーストラリア大学（パース）で研究をさせていただきました。平成5年には鹿児島豪雨災害、平成7年には阪神淡路大震災、平成9年には鹿児島県北西部地震、出水市針原土石流災害がありました。その後、しばらく南九州では大きな自然災害がありませんでしたが、平成15年水俣豪雨災害、平成17年台風14号災害、平成18年北薩豪雨災害、平成19年大隅半島豪雨災害、平成22・23年奄美大島豪雨災害、平成24年内之浦・瀬戸内豪雨災害が続き、災害調査・報告書作成に追われました。これらの33年間の出来事が走馬灯のように頭の中を駆け巡っております。災害調査を通して不飽和土の保水・透水・圧縮・せん断挙動の解明の必要性を痛感し、不飽和土質力学の体系化が私のライフワークとなりました。私の人生にかけられた天網に感謝しております。

ところで、4月からは素浪人生活が始まりました。皆様にお世話になり、ここまで来ることができた人生に対して感謝し、皆様のお役に立てればと思いつながら平穏な日々を送っております。自宅近くの仕事場で資料の入ったみかん箱（網目コンテナ）の山に取り囲まれ、トリアージではありませんが、残す資料と捨てる資料の整理、残した資料の整理の順序等、体を動かしながら考える今日此頃です。老化をいろいろな場面で痛感させられ、ライフワークの最後の仕上げを急がなければと思っております（何かに追われた生活から抜け出せないのは団塊世代の性でしょうか）。

最後になりますが、皆様のご健勝・ご多幸、そして、益々のご活躍・ご発展を祈念し、お礼のことばとさせていただきます。

平成25年6月21日

北村 良介

(E-mail: r-kitamura@hotmail.co.jp)